

令和7年度 生活科実践・研究計画

部 員	○丹理人、柴田省吾
-----	-----------

1 昨年度の成果と課題

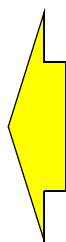
昨年度の実践を通して、生活科における自律した学習者の姿が見えてきた。

- ① 2年「おいしいお米つくりたい」では、米を栽培しておにぎりパーティーをすることを目標に活動する中で、よりよい世話の方法を考えたり、オリジナルの収穫祭をつくったりした。米を守るためにポスターや案山子を作ったり、泥だらけになりながら草取りをしたりすることで、児童は米の生命を感じ愛情を深めた。収穫の喜びや米への感謝を表現する祭りをつくった際には、衣装や歌作り、田んぼの周りでのオリンピックなど、多様な表現が生まれた。お試しの収穫祭では遊びに込めた思いが友達に伝わらず、満足いく結果とならなかったグループもあったが、お互いが思いを共有する場面を設けたり、更に試行錯誤を重ねる時間を確保したりしたことにより、本番は笑顔の溢れる収穫祭となった。成長を願いながら米への関わりをよりよくしようとする中で深まった気付きから多様な表現が生まれた。また、「米の収穫をみんなで祝いたい」という強い願いから祭りをつくる活動に粘り強く取り組む姿が表出したのだと考える。
- ② 1年「なかよしタイムpart3～そら組の友達と一緒に楽しもう～」では新入生に本校を紹介する活動をつくった。授業者は単元構想の際、「勉強」「イベント」「先生」「その他」の観点から活動の内容を決めていこうと想定していた。活動の見通しを立てる話し合いをしていると、何度も発言する児童が多くいる一方で、自分の席に座り、気が乗らない児童の姿も見られた。話し合いが進むと「UFOキャッチャー」「おもちゃ屋さん」など、新入生と一緒に楽しむことで学校のよさを伝えようと、自由に活動を提案する声が聞かれた。当初の構想から離れていくことに葛藤した授業者であったが、「子どもと共に作る」ことを大切にしようと、新入生と一緒に楽しめる遊びを自由につくる活動にしていこうとし、思い思いにやってみたい遊びを書き出す時間を設けた。直前まで話し合いに入れなかった児童も「屋台でたこ焼きを売りたいんだ」と参観者に話しかける程活動に前のめりになっていた。本番に向けて準備を進める際には、授業が終わる時間になっても、友達と幼稚園児の姿を想像しながら、材料を手にとって屋台をよりよくしようとする児童の姿が見られた。子どもの思いに寄り添えるような授業デザインや場づくりにより、自ら問い続け、願いを具現化しようという気持ちが高まったと考えられる。
- ③ 上記の2年生での実践では、お試しの祭りの後に全体での振り返りを行った。悩んでいる様子のグループに焦点を当てて話し合ったが、一人一人が異なる思いをもって活動していたためか、深まりが見られなかった。また、1年生の実践では、授業の終わりに互いの活動について意見を交流する時間を設けたが、話し合いには入らずに活動に没頭する児童の姿が見られた。掲示に書き込んだり、必要なメンバーで集まって振り返ったりと、それぞれの思いが溢れ出す瞬間を捉えて行うような振り返りや意見交流の工夫が必要だと考える。

成果と課題を踏まえ、生活科部は、自律した学習者の姿を次のように捉える。また、自律した学習者が育つ授業デザインの具体的な取組を次のように設定する。

2 生活科における自律した学習者の姿

- ①② 対象に繰り返し関わり、思いや願いを強くしていく中で豊かに表現し、活動をよりよくしようと試行錯誤する姿
- ③ 必要に応じて場やメンバーを自ら選び、意見を共有することにより気付きをつなげ、よりよい活動にしようとする姿



3 授業デザインの具体的な取組

- 繰り返し関わり、手応えを感じながら活動を発展させていくことができるような対象の設定や、出会いの場の工夫
- 思いに寄り添った展開や場で、児童が生き生きと活動できる単元づくり
- 場所・時間、メンバーを選び、必要感があるような振り返りの場の工夫や、気付きをつなぐ教師の意図的な声掛け